



TITLE:

昔兒吉思その他：「マルコ・ポーロ  
の傳へた蒙疆の事情」補正

AUTHOR(S):

藤枝, 晃

---

CITATION:

藤枝, 晃. 昔兒吉思その他：「マルコ・ポーロの傳へた蒙疆の事情」補  
正. 東洋史研究 1939, 5(1): 67-68

ISSUE DATE:

1939-10-30

URL:

<https://doi.org/10.14989/145661>

RIGHT:

## 昔兒吉思その他

——「マルコ・ポーロの傳へた蒙疆の事情」補正——

藤 枝 晃

本誌第四卷第四・五號（蒙疆專號）所載の拙稿「マルコ・ポーロの傳へた蒙疆の事情」の中で、チンギス汗の血統の者のみが飲むことの出来る御料の白馬の乳を飲む榮譽を與へられたといふホリアト Horiat といふ一族を、私は、チンギス汗隨一の功臣モンリク・エチダを祖とするコンゴタン氏であらうと解しておいた（四四二—三頁）。ところが同號の合評會の席上で、畏友愛宕學士より、元史一二 昔兒吉思傳に次の様な記事の見えることを注意された。

昔兒吉思。幼從太祖。征回回河西諸國。俱有戰功。

太宗時。從睿宗西征。師次京兆府。會亦來哈姆率諸部兵作亂。昔兒吉思挺身斫賊陣。下馬搏戰。賊衆莫不披靡。俄失所乘馬。步走至睿宗軍中。賊退。睿宗嘉其勤勞。妻以侍女唆火台。世祖尤愛之。軍旅田

獵。未嘗不在左右。初昔兒吉思妻爲皇子乳母。於是皇太后待以家人之禮。得同飲白馬湏。時朝廷舊典。白馬湏。非宗戚貴胄不得飲也。

すなはち、白馬の湏は宗戚貴胄でなければ飲むことの出来ないきまりであるのを、昔兒吉思の寵用されたためと、その妻唆火台が、もと皇子の乳母であつたがために、皇族の待遇をうけて、之を飲む名譽を與へられたといふのである。「世界事情」に、ホリアトは「チンギス汗を助けた功によつて、この榮譽を得た」といふのとは、多少の相違があり、また、この恩典を與へられたものは、後にも前にも昔兒吉思一家だけとは限らないであらうから、ホリアトは即ち昔兒吉思を指してゐると直ちには言ひきれないが、これが「世界事情」に見える様に傳へられたと考へても宜いのではないか

と思ふ。ともあれ、「時朝廷舊典。白馬湮。非宗戚貴胃。不得飲也」の句を前稿に引用し得なかつたのは私の失檢であつた。

\*

前稿四四七—八頁の「番僧の止雨の祈禱」の項の中で、カシミールの僧が種々の魔法を使ふことを「世界事情」の別の箇處でも述べられてあることを書き落した。すなはち同書第四十九章（ユール本第一編三十一章）「ケシミル Kesimur (Chesimur) のくにのこと」の中に次の通り記されてゐる。

ケシミルの國も、住民は偶像(佛)教徒であつて、独自の國語をもつてゐる。彼等は實に不可思議な魔法を、「誰よりも」よく心得てゐる。すなはち、「啞で聾の」偶像に口をきかせたり、「話しかけて返事をさせたりする」。法力で、「思ふがまゝに」天氣を變へたり、「明るい所や日中を」眞暗にしたり、「暗やみを明るくしたり」する。「その外も」法力と智慧とで以て、實際に見ない人は誰しも本當とは思はれない様

な「さまざまの素晴らしい」事をやる。而して、彼等は、「世界中の」他の偶像教徒の頭であり、「發祥地であつて」彼等(の國)から偶像が生れるのだ。

\*

前稿の「世界事情」本文の拙譯の誤りについて、岩村忍氏から御注意をいただいたから、それに従つて、左の通り訂正する。

一、四二三頁、最後の行の<sup>A</sup>B「それを作るに適してゐる」を、「住民はそれ(アシウル)を作るに巧みである」と改める。

二、四二四頁、第八行<sup>A</sup>「最も賢く」は「最も色白で」と改める。

三、四四〇頁、第六—七行「悪い天氣はすべての外の處へ行つてしまふ」を「他の處ではすべて悪い天氣なのでが。」と改める。

懇篤なる示教を辱うした岩村・愛宕兩學兄に厚く感謝する次第である。